



2018年11月27日

ジェットスター・ジャパン株式会社

ジェットスター・ジャパン 次なる成長フェーズにむけてエアバス A321LR の導入を決定

- まずは3機のエアバス社製 A321LR を2020年から順次導入
- 航続距離の延長で成長が続く中距離国際線の運航も視野に検討
- 機材拡充を通じてより多くのお客様に低運賃での空の旅を提供

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優、以下、ジェットスター・ジャパン)は本日、エアバス社製 A321LR 3機を2020年から順次導入することを発表しました。同機種の導入により、ジェットスター・ジャパンは次の成長フェーズに入ります。

好需要が続く既存の国内線、国際線に A321LR を導入することで、提供座席数を効果的に増やします。また、航続距離の延長を受けて、成長を続ける東南アジアをはじめとした中距離国際線の運航も視野に入れて検討します。また、将来的な機材と路線網の拡充を見据え、東京(成田)・大阪(関西)・名古屋(中部)に続く第四の国内拠点の開設も検討します。

A321LR は、現行の A320ceo に比べて座席数が増え、航続距離も伸びます。新型エンジンを搭載するため燃費 20%の削減に加え、二酸化炭素排出量も1機当たり年間 3,600トン削減できるほか、静粛性は CAEP/6 基準(注1)を 50%下回っています。

ジェットスター・ジャパンは2012年の就航開始より国内の路線網を拡充し、LCCとして国内線最大シェア(注2)を擁しています。2016年6月期(2015年7月~2016年6月)から3年連続で黒字を計上し、成田・関西・中部の拠点空港から現在24機により国内路線を19路線、国際線を9路線運航しています。今年の12月19日に成田(東京)／大阪(関西)＝高知、2019年3月30日には東京(成田)＝宮古(下地島)路線(注3)の就航を予定するなど、国内路線を引き続き拡充し、LCC最大の国内線シェアを維持できるよう努めます。

ジェットスター・ジャパン代表取締役社長の片岡優は、次のように述べています。

「就航から今日までジェットスター・ジャパンが成長できたのも、関係各所の皆さまのご支援のおかげと感謝申し上げます。このたび、エアバス A321LR を導入機材として選定しましたが、この機種こそがジェットスター・ジャパンの成長に相応しいと判断しました。A321 の導入は、当社の成長の証であり、より多くのお客様に低運賃で空の旅を提供することへのコミットメントを示すものです。

3機のA321LRの導入により、好調な既存路線において提供座席数を増やすことができる上に、特に東南アジアへのリゾート路線など、新たな市場を開拓できる可能性が広がります。

国内の旅行者や訪日観光客がともに急増するなか、地方自治体や空港との関係を構築・強化し、地域経済のますますの発展に貢献する一翼を担う存在でありたいと考えます」

エアバス・ジャパン株式会社代表取締役社長ステファン・ジヌー氏は次のようにコメントしています。「ジェットスター・ジャパンでは現在24機のA320を運航されており、日本のLCCのなかで最大のA320オペレータです。A320がジェットスター・ジャパンのビジネスに貢献し、路線網を拡大しているのは我々にとっても嬉しい限りです。今回導入を決定されたA321LRはA320neoファミリーでもっとも大きい単通路型機で、最大で244座席を装備します。航続距離も4,000海里(7,400km)まで伸び、ジェットスター・ジャパンの今後のさらなる成長に貢献できると自負しています。卓越したオペレーション効率を実現するジェットスター・ジャパンのA320にA321LRが加わることで、競争の激しいLCC市場で優れた運航コストを実現します」

(注1)CAEP(Committee on Aviation Environmental Protection:航空環境保全委員会)で設けている騒音基準

(注2)国土交通省「航空輸送サービスに係る情報公開(平成30年度第1回)」(2018年10月発表)を基にジェットスター・ジャパンが算出。本邦LCCにおける国内線マーケットシェア:51%(RPKベース:平成29年7月~平成30年6月)

(注3)2018年11月27日(火)現在。2019年12月19日(水)東京(成田)/大阪(関西)=高知、2019年3月30日(土)東京(成田)=宮古(下地島)路線を就航予定。東京(成田)=宮古(下地島)便につきましては、3月30日の運航については関係当局の認可を、また3月31日以降の運航については関係当局への申請および認可を前提としています。

【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より日本国内線、2015年2月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内13都市・19路線、国際4都市・9路線を24機のエアバスA320型機(180席)で1日約100便を運航しており、就航から2,700万人以上のお客様にご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>

(ご参考)エアバス A321LR 型機 仕様概要

A320neo ファミリーのなかで最大の単通路型機

- 座席数: 206 席～244 席
- 航続距離: 約 7,400km (4,000 海里)
最大 9 時間の飛行が可能(オプションタンク装備)
- 燃費効率: 現行の A321 に比べて現在 15%削減、2020 年までに約 20%削減
- 静粛性: 新型エンジン搭載で CAEP/6 基準を 50%下回る
- 手荷物収納スペース: 現行の A321 型機に比べて最大で 60%向上



導入機材により仕様が異なる場合がございます